

2 1 . 深江駅周辺の「イチ押し産業遺産」 <魚屋道 (ととやみち) >

阪神深江駅を降り、南（浜側）へ出ると、大日霊女神社（おおひるめじんじゃ）の境内に碑文がある。魚屋道は江戸初期から灘地方と有馬を結ぶ東六甲最古の山越え交通路であったと説明されている。また、この道を登ると森稲荷神社に通じるので、古くから「稲荷筋」と地域の人たちに呼ばれてきた。深江駅は、2006年ごろから高架工事に入り、ようやく下り線が高架開通した。上り線も高架になるのは再来年の見込みである。

魚屋道に沿って、トーカロ、三徳、美交化学、東洋ナッツなどの企業があり、阪神・淡路大震災で倒壊した阪神高速神戸線の南側には、神戸大学海事学部、新明和工業がある。小野建の敷地に「B29の落し物」が展示されており、産業の要衝であったことが分かる。

魚屋道は、幕府公認のルートでなく、人々は遠回りの正規ルートを嫌ってこの道を利用した。街道沿いの西宮や生瀬などの宿場の商人は通行禁止を大阪奉行所へ訴え、しばしば紛争が生じた。深江浜の魚は、大正時代まで、ここ深江から有馬に運ばれた。（平松 新 記）

